

～バスケットボールを通じて千葉県へ恩返しを～

千葉ジェッツふなばし 取締役・パートナー本部長 佐藤 博紀



人生の意味。そんなことを、誰しもが一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。私がそれを意識しはじめたのは、2005年のbjリーグ開幕時に本格的にプロバスケットボール選手としての活動をスタートさせた頃でした。今でこそ、日本代表の目覚ましい活躍もあり、連日のように試合中継やニュース速報などでバスケットボールの話題を目にするようになりましたが、当時は、体育や部活動で触れたことはあっても、観戦を楽しむごく一部の熱狂的なファンが支持するマイナーなスポーツでした。しかし、世界に目を向ければその競技人口はサッカーよりも多く、国内でさえ中学・高校における部活動での競技人口はサッカーや野球を凌駕すると言われていました。自分もそんなバスケットに魅了されて幼少期から一筋に打ち込んできた身として、なぜこんなにも奥深く、競技人口も多いスポーツがこの国で日の目を見ないのか。もっと多くの方に、野球やサッカーと同じく、いやそれ以上に感動や興奮を届け、バスケットボールを通じて日本を元気にすることができるのではないかと。そう自問自答し続けていました。そんな折、2011年に私の故郷でもある千葉県唯一のプロバスケットボールチームとして、千葉ジェッツが誕生したのです。現在は日本代表でキャプテンを務める富樫勇樹選手を筆頭に、多くの人気選手を抱えるクラブへと成長を遂げた千葉ジェッツですが、もちろん設立当初は誰も知らない無名のチームでした。ですが、私の中で確固たる決意がメラメラと燃え出したのを鮮明に覚えています。自分が生

まれた千葉県に根を下ろす、この千葉ジェッツというチームの名を全国に轟かせよう。そして、千葉ジェッツというチームを通じて、バスケットボールの魅力をもっと多くの人に知ってもらい、私を育ててくれたバスケットボール、そして千葉県へ恩返しをしよう。bjリーグの開幕と同時にふつふつと湧き上がっていた自分の「人生の意味」というものを、明確に意識した瞬間でした。今回この依頼をお受けしたのも、この文章を通じて一人でも多くの方にバスケットボールのことを知ってもらうこと、また私のバスケットボール人生における経験が、少しでも教職員の皆さまが子供たちと向き合う上での何かしらの道しるべになればという思いからです。お伝えしたいことを大きく3つに分けて、出来るだけ分かりやすく皆さんにお届け出来ればと思います。

まず、スポーツと教育がとても密接だということ。私は小学校4年生のころにバスケットボールと出会いました。小学校4年生の時に赴任してきた先生がミニバスケットボールチームを創設したのが理由です。私にバスケットボールに対する興味を持たせてくれたことが全ての始まりでした。中学でもバスケットボール部に入部し、今は部活動が地域移行化されつつありますが、当時の先生はとても熱心に指導してくださいました。そのおかげで八千代高校に推薦で進学ができ、バスケットを続けることが出来ました。高校ではバスケットをする以前に人としてどのようにあるべきかを多く学びました。スポーツを通じて

人間性や社会で生活していく上で大切なことを学んだと思っています。仲間との協調性やコミュニケーションの重要性、目標を掲げ、なりたい自分とチームの目標を並べてステップアップしていくことの楽しさや、当たり前ですが人の話は目を見て聞くことや話すこと、挨拶をすること、道具や使用するものは大切にすること、関わる全ての人への感謝を忘れないことなど、私が社会に出てから通ずるものが本当に多くあると感じております。全て当たり前のことかも知れませんがバスケットボールとともに私は成長出来たと思います。もちろん普通の学校生活の中で学んだことも大切だと思いますが、スポーツを通じたことで学びに深みが出たと思っています。私も3人の子供を持つ、父親です。子供たちは家庭より学校にいる時間が長くなっていく中でどのような時間を学校で過ごしているかはとても大切なことだと思います。私の人生の師は先生方でした。毎年多くの子供たちが入学して卒業して行く中で、目まぐるしい毎日かと思えます。千葉県を本拠地とするスポーツチームとして先生方とともに、一人でも多くの子供たちがハッピーとなる千葉県を、皆様と協力をして作っていきたいと思っています。

次に、千葉ジェッツというクラブを皆様に知っていただければと思います。千葉ジェッツは創設時より、地域密着型のクラブチームであることを誇りとしています。もちろんチームは強く、応援されるクラブでなければいけません。しかしながら、スポーツクラブがただバスケットの運営をしているだけでは千葉県や社会にとっての存在意義が欠けてしまうと考えています。スポーツのもたらす影響力は強く、地域の皆さんの日常になるために何でもやってきました。学校訪問やバスケットボールクリニック、地域のお祭りへの参加、

企業と地域をつなぐための取組として、スポーツを通じた社会貢献「JETS ASSIST」の発足、子ども食堂や絵本の寄贈などを通し地域へ根を広げています。所属選手も、自ら活動を考案し、地域活動を行っています。また様々な市と包括協定を結び、活動の場を広めています。このような活動を設立当初から続けて来た結果、千葉県には、バスケットボールは、【する】文化だったものから少しずつバスケットボールを【見る】文化も根付いて来ていると思います。これからも地域のために頑張っていきたいと思っています。

終わりに、今後の日本のバスケットボール界についてです。2016年にB Leagueが発足して8年目となります。バスケットボール界は今まさに【B.革新】と命名された構造改革が進んでおります。B. LEAGUE PREMIERとして2026年からの開幕を目指し、世界一型破りなライブスポーツエンタメにというコンセプトのもと、国内外有望な選手がプレーする高いレベルの環境や世界基準の技術力を誇り、国際大会でも活躍するクラブの誕生を目指し、開幕するリーグです。今のB1のチームがB. LEAGUE PREMIERへと昇格し、参入するためには厳しいライセンス基準を達成していることが前提です。千葉ジェッツは全ての基準をクリアしており、アリーナに関しては南船橋に【LaLa arena TOKYO-BAY】という1万人収容の新アリーナの竣工を2024年春に予定しています。子供たちが憧れ、目指したくなる夢のあるリーグ、クラブになることを誓い、千葉県を盛り上げていきたいと思っています。私がプロバスケットボール選手としてスタートした時から約20年の月日が経ちました。今後も私の人生をかけて千葉県のバスケットボールの発展のために頑張っていきたいと思っています。